

5月5日 立夏

# ノルマンジーなう



石割京大農園  
Ishiwari Kyoto-univ. Farm

仏国ノルマンジー地方で京野菜の栽培を試みて2年、ビギナーズラックはあったものの、まだ、きちんと栽培できていません。原因は、現地の自然条件（日長、気候、土壌など）をカラダの感覚として理解できていなかったことにあります。いずれの情報も事前に入手はしていましたが、それらの数値だけから、春や秋の始まり方、春から夏への気温の変化、雨の降り方、風の強弱、土壌の水保ち、などを感じ取って対応策を作物の作り方に反映させること、ができていませんでした。そこで今年は現地に京大チームが常駐して、資材を援用し品種や栽培法を工夫して対応しようとしています。まずは温室を建て増し（写真下）し、育苗を工夫し（写真上）、土壌に適応する品種を探しています。さて、その首尾は？



松原君の送ってくれた新温室の写真。上はガラス室内に設けたビニールトンネルでナスを育苗する様子。

